

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 14 日現在

機関番号： 34526
 研究種目： 基盤研究 (C)
 研究期間： 2010～2012
 課題番号： 22530898
 研究課題名（和文） 保育の質の向上のための実践の振り返り過程・自己評価の手法及び園内研修システム開発
 研究課題名（英文） Assessment Methods and Training System Development in Kindergarten to Self-process Review of Practice to Improve the Quality of Early Childhood Education
 研究代表者
 瀧川 光治 (TAKIGAWA KOJI)
 関西国際大学・教育学部・准教授
 研究者番号： 40340939

研究成果の概要（和文）：

本研究は、保育者自身が自らの保育実践を振り返り、自己評価するための手法の開発を行い、それと同時に、それらを踏まえた幼稚園・保育所の職場内研修システムの開発を行った。具体的には、「① 保育の振り返りの観点や手法や考え方を具体化した種々の「ワークシート」の作成と、「② 園内研修の考え方や手法の具体的な例」について整理を行ったが、これらは保育現場の園内研修などで実際に使用していただき、ブラッシュアップしながら、アクションリサーチとして行ったものである。

研究成果の概要（英文）：

This study was performed to develop some methods for kindergarten teachers themselves look back early childhood education and care practice of their own, to self-evaluation. In addition, we have developed a job training system of kindergartens in light of the Review of educational practice.

More specifically, we have developed the some worksheets for kindergarten teachers of various embodying the ideas and techniques and the point of view of Review of early childhood education. And then, we organized for the specific example of the ideas and techniques of training in kindergarten.

These are intended to be actually used in such training, while validation was performed as action research.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野： 教育学

科研費の分科・細目： 幼児教育・保育

キーワード： 保育実践、振り返り、自己評価、保育の質、園内研修、ワークシート、マインドマップ、指導計画

1. 研究開始当初の背景

「保育を振り返ること」は、指導計画作成や保育内容を構想していくにあたって欠か

せないステップであり、保育現場にとっては古くて新しい課題である。保育の質を維持・向上させていくためには、園外研修の受講や、各園の園内研修・保育カンファレンスなどの組織的な取り組みと同時に、各クラス担任における保育実践の「振り返り」「自己評価」が必須である。ショーンの「反省的实践」モデル（佐藤・秋田,2001）が保育界で本格的に検討されるようになって久しいが、現代の保育界において「振り返り、課題を見つけ、改善を図るサイクル」（秋田,2009）が重要不可欠なものとなってきている。とくに保育を振り返ることは、「自らの保育実践の振り返り」及び「子どもの変容する姿を捉えること」の2つの側面（厚生労働省,2009）から捉えることが重要であり、とくに後者は、ある活動から次の活動の多様な展開を如何に想定して、学びや経験をつないでいくか（要領,2008；無藤隆,2009）の検討も含めて、振り返り・自己評価を指導計画や保育実践に活かしていくことがこれからより強く求められる時代となってきている。

2. 研究の目的

本研究は、「保育者自身が自らの保育実践を振り返り、自己評価するための手法の開発」及び「それらを踏まえた幼稚園・保育所の職場内研修システムの開発」を行い、保育の質を向上するための手法、ツール、システムを提案するものである。保育の振り返りの観点・視点は、個々の保育者により多様にありうる一方、いくつかには類型化しようと考えられる。またその手法も、事例・エピソード記述型（鯨岡峻,2005,2009 など）、保育マップ（新開・岡本・庄籠ら,2007）、環境図記録（河邊貴子,2008 など）、チェックリスト型やビデオ・カンファレンス方式（秋田・小田豊ら,2008 など）などといった様々なものがあるが、目的や保育経験年数に応じての有用性の違いがあると考えられる。

そこで、文献調査による観点や手法の整理、質問紙調査による実態把握を行うとともに、調査協力園において知見を再投入することで保育実践の質の向上についてアクション・リサーチによる実証的データを提示することを第一の目的とする。そして、第二の目的としては、それらを統合した形で「目的や経験年数等に応じた保育実践の振り返り過程・自己評価の手法及び園内研修システム」を構築することにしたい。

3. 研究の方法

(1) 研究の流れとしては、1年次（プレ調査）→2年次（再投入・アクション・リサーチ）→3年次（ポスト調査・まとめ）という位置付けで進めた。

(2) 調査方法・内容

●調査①—文献調査

現在流布あるいは開発されている振り返り・自己評価の観点や手法、そして園内研修システムの整理を行った。たとえば、手法については、前述の事例・エピソード記述、保育マップ、環境図記録などがあり、振り返りを指導計画に活かすという点では、観察を軸にした関係活動モデル（玉置,2008）や、記録を軸にした今井和子（1999 など）や久富陽子・梅田優子（2008）や、河邊（2005）などがある。

●調査②—インタビュー及びフィールド調査

<インタビュー> 我々は園内研修の講師等で保育現場に関わることも多い。そこで、これまでのそのような経験を基盤としつつ、調査①で得られた知見や新たな観点や手法について保育現場の先生方にも園内研修や保育カンファレンスなどを通じて、共有してもらうことで（知見等を再投入することで）、それらの観点や手法、システム等が保育の質を高めるのにどの程度有効なのかをインタビューを通じて明らかにした。

<フィールド調査> インタビューと同様に、実際の保育現場でのフィールドワークを行う。具体的には、保育の振り返り過程・自己評価の観点や手法、そして園内研修システムについて、アクション・リサーチを行うことで、それらの観点や手法、システム等が保育の質を高めるのにどの程度有効なのかを明らかにした。

●最終的に、保育実践の振り返り過程・自己評価の手法及び園内研修システム開発
上記の調査①②の調査・検討を踏まえて、統合することで、目的や経験年数等に応じた保育実践の振り返り過程・自己評価の手法及び園内研修システム開発を行った。

4. 研究成果

(1) 研究成果のポイント

本研究の成果は、大きくは次の2点である。

- | |
|-------------------------------------|
| ① 保育者自身が自分の保育を振り返るためのワークシートの作成 |
| ② 「保育の振り返り」を次に生かしていくための園内研修のポイントの提示 |

(2) 研究成果の概要

本研究は、保育者自身が自らの保育実践を振り返り、自己評価するための手法の開発を行い、それと同時に、それらを踏まえた幼稚園・保育所の職場内研修システムの開発を行うことにより、保育の質を向上するための手法、ツール、システムを提案するものである。

(A) 保育者自身の保育の振り返り過程の手法の開発／(B) その振り返り過程を踏まえて

た自己評価の手法や観点の開発／(C)そしてそれらの振り返り・自己評価を踏まえた園内研修システムの開発といった3タイプの研究を行うものである。しかしながら、これらは互いに独立したのではなく、実践過程としてはA・B・Cの3層構造として捉えられるものであり、それを自覚的に行うことが各園での保育の質を高めるためには欠かせないものである。

結果として、当初の研究計画の通り、保育現場の実践に寄与する「保育実践の振り返り過程・自己評価の手法および園内研修システム」のハンドブックの作成を行った。具体的には、「① 保育の振り返りの観点や手法や考え方を具体化した種々の「ワークシート」の作成と、「② 園内研修の考え方や手法の具体的な例」について整理を行ったが、これらは保育現場の園内研修などで実際に使用していただき、ブラッシュアップしながら、アクションリサーチとして行ったものである。

なお、ここでの保育の振り返りは、「保育者自身の保育や子どもの見方」「今日の保育を明日の保育につなぐ(活動と活動をつなぐ、経験や学びをつなぐ)」ということ意識した振り返りを意味し、そのことによって保育の質の向上につないでいくことを意図したものである。

(3) 研究成果の具体例(「保育の振り返りハンドブック」より)

1) 保育の振り返りや記録および自己評価を、明日の保育、1か月後の保育、半年後の保育に生かしていくためには、下図1のように「① 私たち保育者自身の子どもの見方を把握し、援助する際の特性」、「②目の前の子どもの姿」を踏まえることが大切です。

それは、とくに「遊びや活動の展開の方向性を見通すこと」「教材研究と活動の分析を行い保育の構想に生かすこと」に、保育の振り返りや記録、自己評価が生かされていかなければ、振り返ったこと、記録したことが単なる実績報告(実施記録)になってしまいます。

そのため、「保育を振り返り、記録すること」は、指導計画作成や保育内容を構想していくにあたって欠かせないステップで、保育実践の基盤になるものです。「振り返り、課題を見つけ、改善を図るサイクル」(秋田喜代美, 2009)を意識して日々の保育を実践することが重要不可欠です。

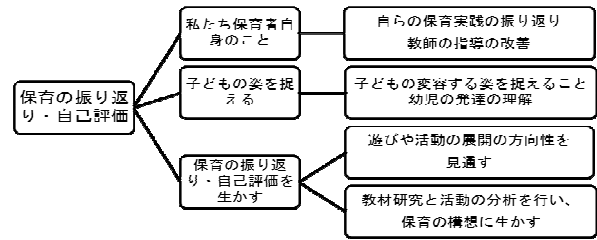


図1 保育の構想に生かすための保育の振り返りの全体像

2) 保育の振り返りを明日以降の保育に生かす

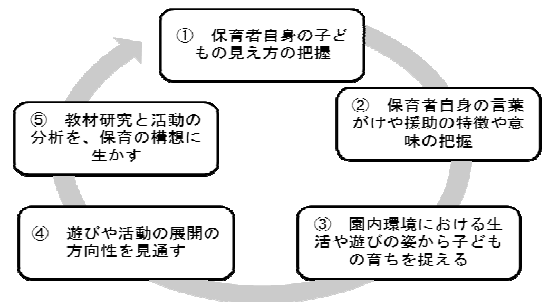


図3 保育の振り返りを、明日以降の保育に生かすための循環過程

私たち保育者自身が、保育の振り返りを、明日以降の保育に生かすためには、図3のように5つの過程を経ることが大切です。

- ① 保育者自身の子どもの見え方を把握する。
- ② 保育者自身の言葉かけや援助の特徴や意味を把握する。
- ③ 園内環境における生活や遊びの姿から子どもの育ちを捉える。
- ④ ③を踏まえた保育の振り返りから、遊びや活動の展開の方向性を見通す。
- ⑤ ④を踏まえた教材研究と活動の分析を、保育の構想に生かす。

①②は、保育者の専門性を支える「保育者自身(自分自身)」の特性を把握することを出発点としています。

③は、通常、保育日誌(記録)や個人記録などとして記述されるものです。その保育日誌(記録)や個人記録を書く作業を通して、私たちは保育の振り返りを言語化・意識化していることとなります。

せっかく日誌や記録を書いたことが、その後の保育の展開に十分に生かされないのはもったいないことです。

そこで、その次のステップとして、「④ 遊びや活動の展開の方向性を見通す」が必要となります。その見通したことを踏まえて、「⑤ 教材研究と活動の分析を、保育の構想

に生かす」ことによって、この循環過程（サイクル）は成り立っています。

何度も何度もその過程をくりかえすことによって、「① 保育者自身の子どもの見え方」がより確かなものになっていき、「⑤ 保育の構想に生かす」ことができるようになります。しかしながら、いきなり全部のステップを深めていくのではなく、1つ1つのステップを少しずつ深めていくことが大切です。

3) 以下、省略

- 保育の振り返り・自己評価の観点について
- 長期的な視点での保育の振り返りと記録
- 短期的な視点での保育の振り返りと記録
- 遊びを見る目を養うために（資料）

① 子どもの気持ちと体験の読み取り—発達を支える環境と援助について—

② 協同的な活動を保育で積み重ねていくために

③ 子どもの探索活動・探究的な活動を育てる—幼小接続の視点を踏まえて—

④ ごっこ遊びの育ちと広げ方

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

小野真理子・新開よしみ・柳瀬洋美・後藤範子・蔡和美・丹羽さかの・石坂麻美・中山恵理子(2010)『共に育つ保育者養成』の探求Ⅰ」東京家政学院大学紀要第50号, 2010

瀧川光治(2011)「指導計画づくりに活かすための保育記録のあり方(1)—先行文献の整理を中心に—」関西国際大学教育総合研究所『教育総合研究叢書』第4号 pp. 53-70

瀧川光治(2013)「保育場面の幼児の探索・探究的な活動における「学び」の分析～思考の過程を経て獲得していく学びとその育ち～」関西国際大学研究紀要・第14号, pp. 97-111

〔学会発表〕（計5件）

瀧川光治, 北野圭子(2010)「子ども理解に基づいて活動の広がりや深まりを構想するために(1)—「遊び・活動の内容(学び)」と「他児との関係性(協同性)」の一体的な子ども理解—」日本保育学会大会研究発表論集 Vol. 63, p. 278

北野圭子, 瀧川光治(2010)「子ども理解に基づいて活動の広がりや深まりを構想するために(2)—豊かな毎日をつくる心と体の育成—」日本保育学会大会研究発表論集 Vol. 63, p. 279

瀧川光治(2010)「幼児期における探索・探究的な活動と子ども理解～活動の広がりや深まりを見通すために～」日本乳幼児教育学会第20回大会発表論文集, pp. 68-69

北野圭子, 瀧川光治, 岡本和恵, 飯田裕美

(2011)「子ども理解に基づいて活動の広がりや深まりを構想するために(3)—「豊かな生活経験につながる指導のあり方」の保育実践研究から—」日本保育学会大会研究発表論集(玉川大学)Vol. 64, p. 782

瀧川光治, 北野圭子, 岡本和恵, 飯田裕美

(2011)「子ども理解に基づいて活動の広がりや深まりを構想するために(4)—探索・探究的な活動の広がりや深まりを構想するために—」日本保育学会大会研究発表論集(玉川大学)Vol. 64, p. 783

〔図書〕（計2件）

瀧川光治・小栗正裕編(2012)「改編・保育の考え方と実践」久美出版

岡本拓子編(2013)「感性をひらく表現遊び—実習に役立つ活動例と指導案 音楽・造形・言葉・身体 保育表現技術領域別」北大路書房、研究分担者：新開よしみも分担執筆

6. 研究組織

(1) 研究代表者

瀧川 光治 (TAKIGAWA KOJI)

関西国際大学・教育学部・准教授

研究者番号：40340939

(2) 研究分担者

卜田 真一郎 (SHIMEDA SHINICHIRO)

常磐会短期大学・その他部局等・教授

研究者番号：20353021

新開 よしみ (SHINKAI YOSHIMI)

東京家政学院大学・公私立大学の部局等・准教授

研究者番号：50369352

岡本 拓子 (OKAMOTO HIROKO)

高崎健康福祉大学短期大学部・その他部局等・教授

研究者番号：80309442

(3) 連携研究者

小寺 玲音 (KOTERA RENE)

大阪樟蔭女子大学・児童学部・講師

研究者番号：50369691